

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぐんぐん P O E			
○保護者評価実施期間	2024年 12月 23日		～	2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3 5 人	(回答者数)	2 4 人
○従業者評価実施期間	2024年 12月 23日		～	2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1 3 人	(回答者数)	1 2 人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	きこえない・きこえにくい子どもたちの特性に合わせ、手話言語を軸にしたコミュニケーションを保障。視覚的に情報がキャッチできるための「デフスペース」、関わりを大切にし、安心して理解・参加できる環境を整備。	室内の案内表示や当日のスタッフ・利用者情報を、写真やイラストを活用して視覚的にわかりやすく掲示。子どもが自ら表現したり選んだりできるような関わりの工夫。「伝えたい」「わかりたい」という意欲を引き出す場面設定の工夫。	写真カードや実物を使った視覚的選択肢の充実を進め、子どもが理解できる環境の提供を目指す。あそびを通して、考え、伝える力を育む活動を充実させ、自己表現の場を広げる。スタッフの手話言語力の向上を図り、ロールモデルとの関りを増やし、子どもの可能性を引き出す関わりの質の向上を実現する。
2	子どもが安心してプログラムや活動に集中できるよう、支援中もスタッフ間での情報共有と役割分担に加えフォローし合う体制を整備。	日々の定期的なミーティングを通じて支援内容のすり合わせを行い、スタッフ間での情報共有を大切にしている。支援中も記録の共有や声掛けを意識的にを行い、状況に応じた柔軟なフォロー体制を維持している。	個人情報の取り扱いに十分留意しながら、必要な情報を適切に共有できる仕組みを整備。スタッフ間の連携をより円滑にし、支援の質向上を目指す。
3	大阪府難聴児支援中核機能拠点「ひだまり・MOE」(NPOこめっこ)との連携により支援体制を強化。専門的な支援と情報共有を通じて、きこえない・きこえにくい子どもたちへの支援の質を向上させ、子どもの成長を支える。	「ひだまり・MOE」(NPOこめっこ)との連携を通じて、保護者支援にも繋げた支援体制の強化を図る中で、子どもたちの成長に応じた支援方法を意識的に取り入れている。情報交換とNPOこめっこの研修を活用し、スタッフ間での意見交換を行い、支援の質向上に努めている。	学校を加えての連携を充実させるため、定期的に情報交換の場を設け、子どもたちの成長をより一層サポートできる環境づくりを進める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流や、障害のない子どもたちと一緒に活動する機会を全く作れていない状況。	他事業所や保育所、難聴学級との接点は徐々に増えてきているものの、地域交流の機会を急務とは認識しておらず、取り組みが後回しになっていることが課題の要因と考えている。	地域交流のニーズや可能性について検討する機会を設け、具体的な取り組みの方向性を整理することが必要。子どもたちにとって無理のない形で交流の場を広げていける方法を探っていく。
2	子どもへの直接支援に関する共有や連携はできているものの、事業所の仕組みや運営面についての理解が不十分であり、常勤スタッフとアルバイトスタッフとの間に理解度の差が生じている状況。	スタッフそれぞれの勤務状況により、全体で仕組みを共有する場を持つことが難しく、事業所運営に対する認識にばらつきが出ていることが課題と捉えている。	今年度の前半に、事業所の仕組みについて共有する研修の機会を設け、スタッフそれぞれの理解を深める取り組みを進めたい。
3	活動概要や行事予定について、専用システムや公式LINEを通じた個別発信は行っているものの、ホームページなどを活用した広報や情報公開が十分にできていない状況。	個人情報保護への配慮が必要なため、広く情報を発信する方法の整備が進んでいないことが課題の要因と考えている。	個人情報保護に配慮しながら、広報の在り方について検討を進めるとともに、手話の魅力や子どもたちの生き生きとした様子を伝えられる工夫を取り入れていきたい。